宮柊二記念館だより

2015.11.10
第 43 号
発行　宮柊二記念館
TEL･FAX
025－794－3800

平成20年７月　月岡公園にて

宮英子先生の訃報

ご指導に深く感謝

当館建設の準備段階から今日に至るまで、広範多岐にわたりご援助・ご指導くださった宮英子先生が六月二十六日亡くなられた。まだまだ色々な面でご指導いただかなければならないなかで、先生を失うことは当館にとって残念でならない。

昨年も例年にならい、暮れにご自宅をお伺いした際はお元気で我々を迎え、記念館のあり方、次回企画展のテーマについてなど…ご助言いただいた。これからもまだまだご活躍いただけるものと考えていたのだが…。

今年は戦後七〇年…今回の企画展は「山西省と柊二」として関係資料を公開させていただいている。とりわけ、柊二出征からの英子先生との手紙のやりとりは、注目させられる。

女性として、妻、母として、また柊二亡き後も歌人として生涯を全うされた先生のご冥福を心からお祈りするものである…

合掌。

魚沼の里は、やがて来る白の季節を前に紅葉真っ盛り。おかげさまで今年度上半期の事業も順調に推移しております。皆さまのご来館をお待ち申上げます。

平成25年５月「コスモスの歌人たち展」での笑顔。
このときが最後の来館となってしまいました。

平成４年11月、オープンした宮柊二記念館には一番最初に入館していただきました。

宮柊二記念館短歌大会では、選者を紹介していただくほか、ご自身も選者をしてくださいました。

平成24年５月宮柊二生誕100年記念の企画展示のテープカットをしていただきました。

平成13年には、講演会の講師もしていただきました。

第６回大会の選者・宮地伸一さん達と宮林の墓所を訪れたときの一枚。

市長に面会。この時いただいた寄付を原資に基金を創設しました。

柊二生誕100年企画展祝賀会での一枚。

宮 英子と宮柊二記念館

宮柊二記念館には何度も足を運んでいただきました。その時の写真を少しご紹介いたします。

宮柊二記念館ではこれまで、英子先生から、多くのご指導とご支援をいただいてきました。その一部をご紹介します。

当館の創設から多大な寄付と柊二が大切にしていた多くの資料を快くお寄せいただきました。当館の収蔵資料のほとんどが宮家からのものであり、文学史上にも貴重な財産となっています。

平成四年の開館からしばらくの間は、記念館運営委員会にもおいでいただき、貴重なアドバイスをいただきました。また、開館三年目から始まった短歌大会では、毎回すばらしい選者をご紹介していただき、大会に広がりを持たせてくださいました。また、第七回大会では、ご自身も選者をされ、直接ご指導いただく機会を得ることができました。

自ら優れた歌人でありながら、当館では柊二夫人の立場を貫かれ、前面に出ることはなさいませんでした。何度もこの魚沼の地に足を運んでいただき、親しくお付き合いをさせていただきました。本当にありがたいことであったと、あらためて深く感謝を申し上げます。

平成二十七年度「山西省と柊二」展

節目の年にあらためて

宮柊二は昭和十四年から十八年まで、中国山西省で一兵士としてすごしました。そこでの戦争体験は、その後の歌人・宮柊二に大きな影響を与えています。今年、戦後七〇年の節目の年にあたり、今に遺る当時の資料を通して、柊二が訴えたかった思いに迫ってみました。

柊二の出征

昭和十四年、柊二は北原白秋の秘書を辞め富士製鋼所に就職します。その二ヶ月後、柊二の許に召集令状が届きます。師・白秋をはじめ多くの人たちに励まされ、出征した先は、中国の山西省でした。柊二の任地は省都の太原から更に山地に入った東寨鎮という寒村で、主に警備が任務でした。しかし、戦局は厳しく、たびたび激しい戦闘にも巻き込まれたといいます。四年間が経過した昭和十八年に召集解除となり、ようやく帰国することができました。

励ましの品々を柊二は生涯大切に保管していました。「あんちゃのかみの毛」と書かれた形見からは家族の切なる想いが伝わります。

戦場での短歌

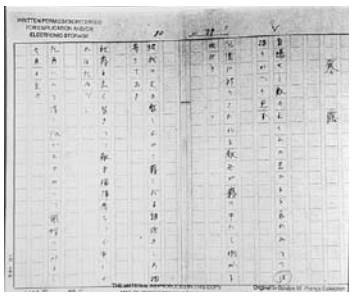
柊二はこの間、短歌を作り続けました。後に『山西省』という歌集にまとめられますが、後記には「これは作品ではない」と書かれています。当然のことながら戦場には短歌の制作に費やす時間などはありません。また、同じく後記には「魚が喰喝（あぎと）ふ（水面に口を出してパクパクする）ようにして記した」とも書かれています。柊二にとっては「ただ湧き上がってきた感情を記録していくのが精一杯で、そのときに短歌の形式になった。短歌にまとめられた時だけが戦場でも呼吸ができたようだ」という意味だったのではないでしょうか。

おそらくは知らるるなけむ一兵（いっぺい）の生（い）きの有様（ありざま）をまつぶさに遂（と）げむ

帯剣の手入（ていれ）をなしつ血の曇（くもり）落ちねど告ぐべきことにもあらず

展示資料から

プランゲ文庫『山西省』（コピー）


検閲の跡が残る原稿。GHQは戦争に関するものに目を光らせていた。

歌集『山西省』は昭和21年に一度原稿がまとめられましたが、ＧＨＱの検閲のため発禁となり原稿は没収されました。その後、原稿は日本文学の研究者であったゴードン．W．プランゲ博士の手によって廃棄処分を逃れ、アメリカのメリーランド大学でプランゲ文庫として保管されていました。平成２年に日本人研究者によって発見され、英子夫人はコピーをもらうことができました。

原稿には、ところどころ歌の上に印がつけられている所があります。当時のＧＨＱが戦争に関係する表現を警戒し、チェックをしていたことが伺われます。

その後、『山西省』は昭和24年に刊行することができました。

ただ、これらの短歌は、北原白秋が主宰していた短歌雑誌「多磨」で発表されたほか、「改造」「日本文芸」などの一般雑誌にも掲載され、多くの人の目に触れることとなります。戦場から遠く離れた日本国内から、希望的観測で戦争を讃えた国民が多かった時代に、生と死が紙一重にある戦場から届く兵士のリアルな表現は、大きな衝撃を与えたことでしょう。宮柊二が歌集「山西省」に記した短歌は、戦後も色あせることなく、名もない一兵士の姿を今に伝えています。

戦中の書簡

もう一つ、戦場の柊二にとって欠かせないエピソードは、後に結婚することとなる瀧口英子との書簡のことです。柊二がもらった英子の分は現存しませんが、柊二が英子に宛てた書簡が残っています。

出征前、多磨の友人の一人として作歌指導のやり取りをしていた瀧口英子は、山西省出征中の柊二と文通を続けます。そこには、検閲を受けながらも、作歌のことや白秋の容態のこと、戦場の様子や二人の将来のことなど様々な内容が書かれていました。これらの便りは戦場という極限状態のなかで、大きな拠り所になったはずです。この書簡の束は、当時の柊二を知る上で貴重な資料となっています。

師・白秋の逝去に立ち会えなかった柊二は深く悲しんだ。写真の背景には白秋の写真が飾られている。

戦後の柊二

さまざまに見る夢ありてそのひとつ馬の蹄を洗ひやりゐき

この歌は昭和三十年のものです。山岳地帯の山西省では軍馬は兵隊よりも大切と言われ、蹄を洗うという仕事も緊張を強いられたものだったのでしょう。その時の夢を見るのは、ぬぐいきれない戦争の記憶があったことを物語っています。

オープニングセレモニーより

柊二が信じていたもの「歌うまきより　文うまきより」

五月十六日には、「山西省と柊二展」のオープニングセレモニーを開催しました。当日は、テープカット、市長あいさつに続き、コスモス短歌会で新潟県支部の橘芳圀先生から「歌うまきより文うまきより」と題して、記念講演をいただきました。

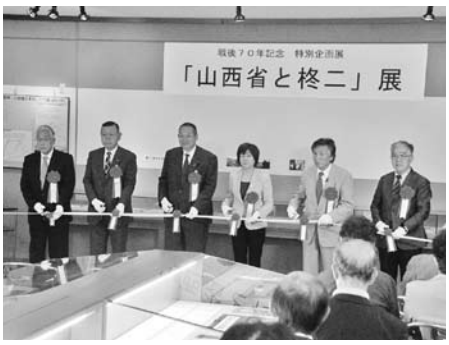
橘先生は新潟県田上町にお住まいで、今年からコスモスの選者をつとめられています。生家はお寺だったそうですが、教職の道を選ばれ、宮柊二が校歌を作詞した高校に勤める機会が多かったそうです。

橘先生からは、深い内容のお話をいただきました。

宮柊二の「たましひに見極めたしと思ふもの歌うまきより文うまきより」という一首から演題をとり、一つのことを信奉することのなかった柊二について、いくつかの論文に取材しながら、柊二が尊く思っていたものを考察してくださいました。

いくつかのエピソードを紹介され、柊二が感じていたものが何だったのかに迫るお話は、我々の生き方までをも考えさせる、貴重な内容でした。

「山西省と柊二展」は平成二十八年五月まで開催する予定です。まだご覧になっていない方は、ぜひお立ち寄りください。



６名の御来賓からテープカットをしていただきました。

関連年表（昭和14～20年）

1939（昭和14年）

3月	北原白秋の許を辞去。
5月18日	川崎の富士製鋼所に入社。
8月7日	簡閲点呼を受けるため、戸倉まわりで帰省。
8月8日	鶴見の家に召集令状が届く。
8月20日	歩兵第三〇聯隊留守隊に応召。第二中隊に編入。
10月22日	大陸へ出発前の一時帰休のため上京、白秋を訪ね挨拶する。同夜、数寄屋橋のニュートーキョーで多磨有志による壮行会。
10月23日	高田の原隊に帰る。
11月23日	独立混成第三旅団歩兵第一〇大隊交替要員として高田出発。
11月26日	門司出発。
12月3日	山西省寧武着。独立歩兵第一〇大隊第二中隊に編入。同日より同地付近の警備及び戦闘に参加。

1940（昭和15年）

6月6日～7月8日	西北山西粛清作戦に参加。
8月11日	第一回多磨賞を授与される。
8月20日～12月上旬	「百団大戦」に対する防備並びに反撃。
12月13日～翌1月下旬	山西西方作戦に参加。

1941（昭和16年）

4月20日～6月15日	中原会戦に参加。
6月1日	陸軍兵長（下士官勤務）となる。
8月3日～10月15日	晋察冀辺区粛清作戦に参加。
12月1日	陸軍伍長となる。
12月26日	鼻及び胸部疾患の疑いで、寧武患者診療所に入院。
12月28日	原平鎮陸軍病院に後送。

1942（昭和17年）

1月31日	太原陸軍病院に後送。
3月2日	蛔虫症兼慢性肥厚性鼻炎と病名決定。
5月21日	治癒退院。翌日、原隊復帰。
8月9日	「多磨」掲載の「晋察冀辺区ソノ他」により第一回多磨力作賞を受賞。
11月6日	北原白秋逝去を戦地で知る。

1943（昭和18年）

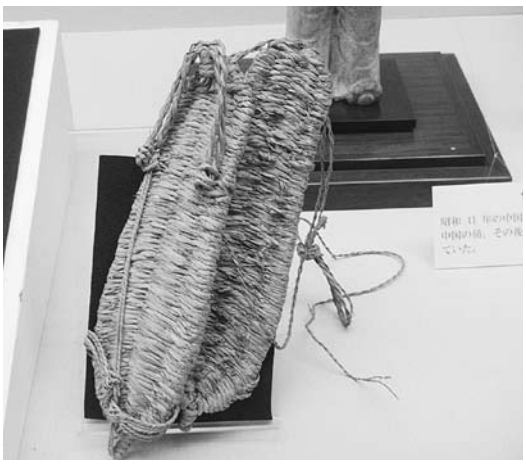
3月1日	陸軍軍曹となる。
4月5日～5月31日	十八春大行作戦に参加。
9月14日	歩兵第一二九聯隊に転属のため寧武出発。
9月24日	釜山港出発、下関港着。
10月2日	召集解除。鶴見の自宅に帰る。
11月2日	富士製鋼所の職場に復帰。

1944（昭和19年）

2月2日	飯田橋大神宮で瀧口英子と結婚。横浜市市鶴見に一戸を構える。

1945（昭和20年）

3月25日	家屋疎開で保土ヶ谷区の社宅に移る。
6月8日	臨時召集のため、茨城県土浦方面を守備。
6月24日	長女が生まれる。
8月15日	戦争終結の詔書放送。
9月6日	復員完結、同日召集解除。
9月9日～9月18日	妻子の疎開先の宇奈月を訪ねる。
10月1日	富士製鋼所の職場に復帰。



柊二は昭和四十一年に一度中国を訪れ、新しい中国の国家にみなぎる力を感じ取ってきた。この中国のワラジを土産にしたのは、広大な黄土高原を黙々と耕す中国の農家の力を感じとったからではなかろうか。

戦争によってもたらされた心の傷は、その後も当事者たちを苦しめるといいます。しかし、柊二は戦後も山西省をモチーフとした短歌を作ることがありました。自分を傷め続けるであろう戦争体験からも目を背けず作歌したのです。そこには、戦争体験すらも自らの生きた証として、残そうとする、柊二の壮絶な意志をうかがうことができます。

中国に兵なりし日の五カ年をしみじみと思う戦争は悪だ

柊二は生涯、戦争という悪に向かい続けていたのかもしれません。

山西省　歌枕の旅

柊二亡きあと九回にわたって、英子夫人をはじめコスモス短歌会の会員を中心に、山西省の柊二の足取りをたどる旅が行われました。

学術的な調査として中国のガイドからも熱心な協力を得ることができ、中隊本部跡、大隊本部跡や、入院した太原の病院跡など、詳しい成果を得ることができました。また、柊二が駐屯していた東寨鎮を流れる汾河という川の岸に、柊二の遺髪が埋められ、両国が二度と悲劇に見舞われることがないよう、祈りが捧げられたこともありました。

一九八八年から二〇〇二年に行われた山西省への旅で、歌集『山西省』の背景となった場所などがいくつも判明した。写真は柊二が入院していた太原の陸軍病院だった施設。

第二十一回 宮柊二記念館 全国短歌大会

応募数は一万三千首以上

今年で第二十一回目となる短歌大会は、十一月十四日に表彰式を行います。応募状況は、一般の部で九九二首、ジュニアの部で、一万二千首を超える、過去最大の数となりました。

近年、短歌に親しむ子どもたちが増えていることを実感しています。これは、伝統的な文芸である短歌の学習に、さまざまな学校が取り組まれているためだと思います。多感な時期を過ごす子どもたちにとっては、指を折りながら短歌をつくることは貴重な経験になっていることでしょう。

選歌をお願いしました渡英子先生と宮里信輝先生には大変な難儀をおかけいたしましたが、作品数が多くなった分、優れた歌も増えていると期待しています。

第21回 宮柊二記念館全国短歌大会 表彰式

◎日　時　　平成27年11月14日(土)
　　12:30～15:00
◎会　場　　魚沼市堀之内公民館　大ホール
　　宮柊二記念館隣り
◎内　容　　①選者講評　②表彰式
◎交　通
〔 車 〕 関越自動車道　堀之内IC　3分
〔鉄道〕 上越線 越後堀之内駅　車で3分・徒歩15分
◎その他
記念館において特別賞受賞者の短歌色紙を展示します。

短歌大会　応募状況

区　　分	応募作品数
一 般 の 部	992首
ジュニアの部	12,675首
(小 学 生)	3,407首
(中 学 生)	4,424首
(高 校 生)	4,844首
総　　計	13,667首

短歌大会　選者ご紹介

宮里信輝（みやさと のぶてる）さん

1949年鹿児島県西之表市生まれ。神戸を経て、現在神奈川県在住。

1970年、コスモス短歌会入会。1973年、第10回桐の花賞受賞。1992年、第38回Ｏ先生賞、第39回コスモス賞受賞。2011年、第33回随筆賞受賞。

歌集に『青世界』、『紫陽花時間』、『花迷宮』、『デーモンの心臓』。

現在「コスモス」選者、編集委員。コスモス短歌会神奈川支部長。現代歌人協会々員。厚木市森林づくりボランティア協会会長。

渡英子（わたり ひでこ）さん

1952年、東京生まれ。早稲田大学卒。配偶者の転勤により日本各地で生活し、三十代後半に短歌を始める。

現在、短歌人同人。現代歌人協会理事。日本文芸家協会々員。日本歌人クラブ会員。早稲田大学エクステンションセンター講師。ＮＨＫ文化センター講師。

「アクトレス」により歌壇賞。歌集に『みづを搬ぶ』（現代歌人協会賞、現代短歌新人賞）、『レキオ琉球』『夜の桃』、最新歌集に『龍を眠らす』。

歌書に『詩歌の琉球』（前川佐美雄特別賞）、『メロディアの笛』（日本歌人クラブ評論賞）。

平成27年度 前期事業

年度の前半が終わって秋の深まるなか、今年度前半の事業を振り返ってみました。その一部をご紹介いたします。

宮柊二講座「『多く夜の歌』をめぐって」

７月26日、歌人の岡崎康行先生を講師に迎え「『多く夜の歌』をめぐって」と題して宮柊二講座を開催しました。壮年期の柊二の作品を文法解説を交えながら、詳しく説明していただきました。

「酒井昭輝・健太 絵画二人展」

６月13日から28日まで、兄弟で絵を描いているという酒井昭輝さん、酒井健太さんの絵画展を行いました。個性がありながらも、同じような雰囲気も感じられた絵画展でした。

右：酒井健太さんの作品
上：酒井昭輝さんの作品

「星義廣ふるさと写真展」

８月29日から９月13日まで、市内在住の星義廣さんの写真展を行いました。ふるさと魚沼の風景や四季の魅力を伝えるような写真を、数多くのコレクションから厳選して展示してくださいました。

夏休みジュニア短歌教室

８月21日、「夏休みの思い出を短歌にまとめよう」というテーマでジュニア短歌教室を実施しました。地元講師の指導で、一歩進んだ短歌づくりの学習会となりました。

新資料紹介

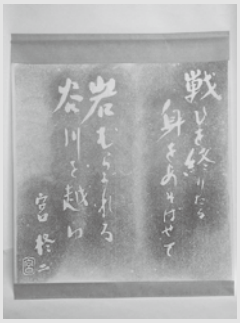
今年度これまでに貴重な資料を寄贈いただきました。厚く感謝申し上げます。今後も大切に保存活用してまいります。

宮柊二　書籍

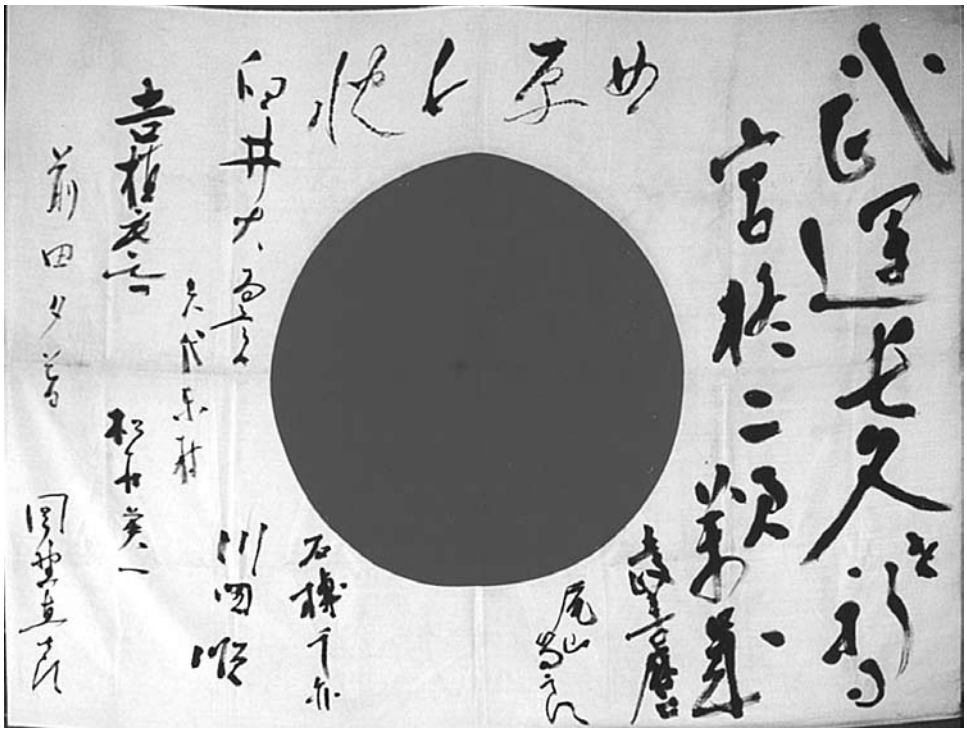
兵庫県のコスモス歌人・水島晴子さんから宮柊二の書籍を寄贈していただきました。中には、部数限定の特装本に署名や歌の入ったものもあり、とても貴重な資料となりました。

歌碑拓本

東京在住の市川謙作さんから、歌碑の拓本を寄贈いただきました。宮柊二の歌碑が七基、他にも宮英子、野村清、中山礼治のものも合わせていただきました。



歌人たちからの日の丸



宮柊二記念館収蔵資料紹介　No.43

出征にあたり柊二は多くの大切な人達から励ましの品をもらい、どれも生涯大切にしていました。その中でも、この正絹の日の丸には、北原白秋をはじめ当時の歌壇の大家の名前が連ねられています。若い歌人への期待がこめられたこの旗は、大いに柊二を励ましたことでしょう。

11月14日放映「にいがた偉人伝」

近年、県内のさまざまなメディアで、郷土の歴史が紹介される機会が多くなりました。そんな中、BSN新潟放送局では十月から、新潟県が生んだ偉人たちを紹介する「にいがた偉人伝」を放送しています。

宮柊二についても取り上げていただき、十一月十四日（土）に放映される予定です。五月から打ち合わせや取材に、多くの方から御協力いただきました。また、時を同じくして、昭和四十年のコスモス新潟大会での、柊二講演の録音テープを寄贈してくださった方があり、柊二の肉声の一部を番組内で再生することができました。

放送後はDVD化され、県内の小中学校、図書館に寄贈される予定とのことです。

発見された柊二の講演の録音テープ

「友の会」からのお知らせ

宮柊二記念館では、会員を募集しています。年会費は一、〇〇〇円です。

くわしいことは、宮柊二記念館へお問合せください。

宮柊二記念館だより　第43号
発　行　2015. 11. 10
問合せ　宮柊二記念館（〒949-7413　新潟県魚沼市堀之内117-6）　TEL･FAX　０２５－７９４－３８００
メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp　ホームページ http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji